

第84回スタディグループ分科会結果報告

運営委員長 村田耕治

(文責：阿部)

1. 開催日時 2020年2月13日(木) 14時30分～16時55分
2. 開催場所 文京区民センター 3階3-C会議室
3. テーマ 「監査役職務確認書の利用の仕方と工夫」
4. 発表者

リーダー/コーディネータ	元王子タック(株)	常勤監査役 荒木道雄氏
メンバー	元日本プラスター(株)	監査役 寺嶋 徹氏
メンバー	(株)キューブシステム	常勤監査役 中井淳夫氏
5. 出席者 26名(含む発表者)
6. 配布資料
 - 1.資料 A アンケート結果まとめ
 - 2.資料 B 回答一覧表
 - 3.資料 C 自由記載欄
 - 4.資料 D 面談打合せメモ
 - 5.資料 E アンケート本文
7. 議事次第、意見交換
(前半 14:30～15:25):
 - 1) 村田運営委員長の開会挨拶に続き、荒木氏から、メンバー紹介と進め方の説明、また、「主な調査視点」の確認及び活動経過の説明がありました。
 - 2) 続いて、今回のアンケート内容についての説明と回答概要の簡単な説明がありました。(大企業上場、大企業非上場、中小、各々約1/3ずつで、回答総数52名)。
 - 3) 次に、寺嶋氏より、アンケート結果まとめについて、資料Aに基づき、詳細な説明がなされました。
 - 4) 次に、荒木氏より、資料C(自由記載欄)について、「KAMについての改訂等」、「確認を保留する」、「読みやすく」、「会社規模別の区分対応」等、特徴的な意見の紹介があり、一部の案については監査役職務確認書委員会で改訂を審議中の旨、説明がありました。また、四半期に一度の勉強会開催等、監査基礎講座での取りあげ等についても意見の紹介がありました。
 - 5) 面談会社選定については、全てのカテゴリーから6社(大企業上場2社、大企業非上場2社、中小2社)を選び、面談を行ったとの説明がありました。休憩10分
(後半 15:35～16:55):
 - 6) 面談内容について、中井氏より、資料Dに基づき、6件の説明がありました。
 - 7) 以下意見交換
 - ① 当確認書に基づき、「セルフチェック」まで行っている方もいる。また、監査役会内での意見交換にも利用している会社もある。但し、中小会社の場合は、ピンとこない設問も多く、切実性なく、またハードルも高い。→もう少し、具体的な、手引書的なもの

が欲しいとの意見もある。

- ② 「利用していない」理由として、「自社に既にある」場合は、それを参照させていただき、当職務確認書を改訂したらよいのでは、との意見あり。「既にある」会社のチェックシート等を一度披露しあってみるのも一つの手ではないかと意見があった。
- ③ 「職務に慣れた監査役は読んでわかる。新任にとっては、とっつきにくい。だからといって、詳細な説明や例示をあげると、ダラダラと長くならざるをえない」、というジレンマがある。 「機関設計ごと(フラッグを立て、大会社、会計監査人の有無、公開等)にその旨付記してわかりやすくし、それ以外の項目は全ての監査役が該当する」、と読んでもらうように改訂すれば、「中小会社でも使える、全体的な標準的な職務確認書となる。」 →次回改訂版に反映する。「カスタマイズ」という言葉はなくすことにする。3/27 に監査実務ゼミで改訂内容について説明会を開催する。(堀田委員長)
- ④ 非上場会社での活用にも大きな手助けになるのではないかと。
- ⑤ 監査基礎講座の講師の方にも、「監査役職務確認書」に沿ってわかりやすく、とのミッションで講座をお願いしている。1/20 に監査基礎講座(監査役及び取締役の職務確認書の活用ガイダンス)を開催したが、利用ガイドの説明会であり、そうした機会に職務確認書の内容にも触れることがベストかと思われる。更に普及に努めるべきではないか。監査基礎講座の充実にも有効な方法たりうる。

監査基礎講座では、講師の方に原則「監査役の実務マニュアル」に沿った講義をお願いしているが、今後、講義の中で、関連する部分について「監査役職務確認書」に記載があることを説明してもらうとよいのではないかと考えている。基礎講座の運営担当の理事に相談してみる。(堀田委員長)

- ⑥ 東証ガバナンスコードの改定に関して、「監査役についての改定がある」、との情報もある。「監査役会の実効性評価」がテーマになるが、当「監査役職務確認書」はそのツールになり得るしこの確認書を「監査役会の実効性評価」に使えるようなものとして作り上げることも考えられる。そうした発展性もある。

以上